

## 緑の公園を抱える富川市…遊び・安全・健康を数多く達成

- 好奇心・冒険心を育む子ども遊び場を拡大…子育てしやすい環境を構築
- 安全で歩きやすい公園を拡充し、市民の日常の中の緑の休憩所づくりに最善を尽くす
- チョ・ヨンイク市長、「2026年までサッカー場100個分の緑地を造成、生活で体験できる緑のまちをつくる」

富川市（市長：チョ・ヨンイク）は、公園を新たにリノベーションし、すっかり変わった様子を公開した。これまで富川市は、計2,964,000㎡の201か所の公園で、市民に日常の中の健康な休息を提供し、緑の福祉を実現してきた。今回の整備で富川市は、▲子どもが遊びやすい公園▲隅々まで安全な公園▲誰もが歩きやすい公園をつくることで、生活の快適さと満足度を向上させる。

### ◆子どもの心と体がすくすく！自然の遊び場を拡大…「家族にやさしい空間福祉を実現」

富川市は、家族単位の利用客が多かった公園の古くて単調な子ども向け遊び施設を、子どもの好奇心と身体活動を刺激する施設に交換した。山に隣接する公園は、自然を思う存分満喫できて、冒険心を育む森の中の遊び場をコンセプトに造成した。



▲上洞湖公園に導入された管内初の体験型プロジェクションマッピングの中、市民がジップラインに乗っている。

まず、上洞湖公園の子ども遊び場の面積を拡大し、夜間の家族連れ利用客のために、管内初となる体験型プロジェクトマップを導入した。ノマル公園の子ども遊び場には、子どもの遊びたい気持ちに応えるジップライン ( zipline ) を富川市では初めて設置した。障害児のための平地型砂場とトランポリンも用意し、誰もが一緒に遊べるプレイスペースに再誕生させた。

陶唐公園、聖柱山アイスプト公園、ウンデミ松ぼっくり幼児森体験園は、森の遊び場に仕上げた。特に、昨年11月に新たにオープンしたウンデミナレ幼児森体験園には、昆虫ホテル、トンボ飛び石、ミツバチ教室、コガネムシハウスなど、子どもの視線に合わせた自然に親しむ遊び施設を設け、近隣住民の反響を呼んだ。富川市はこれからも、特色のある子ども遊び場の開発などを通じて、人口と出生率の減少する地域社会の問題にも積極的に対応する方針である。



▲陶唐公園に新たに造成された森の遊び場には、冒険心を育める遊具がたくさんある。

◆暗い夜の公園散策も安心…「緻密な公園セーフティネットづくり」

富川市は、緊急事態に素早く対処できるよう、公園トイレの中に安心非常ベルを追加設置した。洗面台と個室に設置されたベルを鳴らすと、警察の状況室に自動で繋がり、同時に外部の警報ランプとサイレンも作動する。現在、計91か所の公園トイレに備えられており、2024年上期中に管内の全ての公園トイレに拡大する。





▲管内公園トイレの洗面台と個室に設置された非常ベル。緊急事態に素早く対処できる。

安全な緑の環境づくりのため、上洞湖公園には事故予防知能型システムを構築した。上洞湖周辺の10か所に監視カメラ（CCTV）と警告ベル・安全感知器を備えてリアルタイムで見守り、危険状況を検知した場合は、警察と消防など関係機関と即時協力し対応する。湖の手すりには青い照明を設置し、周りの囲いには危険発生時にランプが点灯し、周りに状況を知らせるシステムも備えた。



▲上洞湖周辺の囲いに設置された安全事故防止システム。危険状況が発生すると、青い光に変わる。

また、セプテッド（CPTED、防犯環境設計）を活用し、公園内の犯罪環境を改善した。ソラン公園・コンマウル公園・中央公園は昨年11月、古い照明施設を交換し、照度を上げた。夜間歩行者の利便を高め、利用者の動線を一定に誘導することで犯罪を予防するためである。このように富川市は、市民が夜遅い時間にも安心して散策できるよう、緻密な公園セーフティネットづくりに万全を期している。

◆誰もが歩きやすい公園づくり…「市民の健康・レジャー生活の増進」

昨年10月、富川市は外郭循環道路の下に位置するヘグヌル植物園のリノベーションを完了した。2011年、全国初となる陰性植物をテーマにして作られたこの植物園は、今回の整備で約3万本の陰性植物とテーマ陰地園を揃えることになった。障害者と老若者の歩きやすいバリアフリー散策路をつくり、歩道の幅も3m拡大して、歩行者の利便改善と安全事故の予防にも力を注いだ。

コリウルカロ公園は、幅広い年齢層の住民の意見を反映し、施設を改善した。子ども遊び委員会の意見に基づいてオープン型プレイスペースを造成、高齢者専用の健康器具ゾーンを整備して、幅広い世代がコミュニケーションできる公園に生まれ変わった。ここは、近隣の西ソウル湖公園まで散策コースが繋がっており、地域住民のレジャー生活と旧都心の活力増進に大きな役割を果たすことが期待されている。



▲子ども遊び場が整備されたコリウルカロ公園で、市民らが散策を楽しんでいる。

この他にも、富川市は総額45億ウォンの予算を投入し、2024年2月にはソセウル公園リノベーション事業を竣工、上期中にはポッサコル・ミルネ公園などの老朽化した近隣公園のリノベーションを完了する。2024年下期まで、自然生態公園内に位置する富川植物園とヌグナ森の道のリニューアルを同時に行い、来園者に緑のヒーリング体験の機会も提供する。また、2025年までは計5.15kmにわたる松内大路青色散策路を造成、テーマ散策路及び都市の夜間景観の改善にも乗り出す予定である。

チヨ・ヨンイク富川市長は、「今後、富川・素砂・梧亭大公園の3区拠点大公園を造成する」とし、「2026年まで、富川内にサッカー場100個分の公園を拡充することで、市民が日常の中で休憩と健康を両方楽しめる、生活で体験できる緑のまちをつくる」と述べた。